



基本CG 7枚+a
本編 141枚

愛娘奴隷

続

ぐわぐわぐわぐわぐわぐわ



私には、愛する妻と娘がいる。

だが今は仕事の都合で単身赴任となり、彼女たちとは仕方なく離れて暮らしている。

——というのは表向きで、
実際は別居のようなものだ。

今の私は実家から離れたこの地で、
自分の趣向を楽しむことができている。

少しだけ度の過ぎるサディスト気質で、
SMプレイを好みとしていること。

それが、私の趣向……秘密だ。

そんなとある日。

娘の瑠菜“るな”が、
長期の休みを利用してうちに来る。

久しぶりに会う、自分の娘。
ほんの数年ほど会わないうちに、
瑠菜はすっかり大人になっていた。





それから、数日が経った。

瑠菜はS Mに興味を持っているようだ。

本人に自覚はなかったとしても、
そんな気持ちが隠れているであろうことは、
私には、よくわかる。

M氣質を持った、
調教し甲斐のありそうな女の出現に、
父としての理性が吹き飛んでしまう。





笑っていいのか、驚くべきなのか、
はたまた嘆くべきなのか、わからない。
とにかく、瑠菜は正真正銘のマゾだった。
ならばもう、遠慮することはない。

公園で露出スカトロプレイ

翌日、会社からの帰り道、私は考えていた。
今夜は、瑠菜をどう責めてやろうかと――

……ん？

瑠菜、どうしてここに
私のお迎え……か？

あれは、瑠菜だ。いや、確かに瑠菜なのだが……
どうして、コートを着ているのだろうか。



瑠菜

パパ……あの、
おかえりなさい……

来なさい

もう、察しはついた。
だから、無駄なことは聞かない。



公園に到着し、木蔭へと入った私は
おどおどしている瑠菜に命じた。

今、まわりには誰も
そのコートの前を、
はだけて見せない

.....





ん……だつてえ、
パパをお迎えに行くから、
何かしたいと思つてえ

いっ

いっ

やっぱり
そうだったのか

あのね、パパのもの勝手に
持ち出してごめんなさい
コートも勝手に着てごめんね

おい、瑠菜、
これは……

これで、いいんだよね？
パパが使ってるお道具から
持ってきたの……

もど

もど……

先に私の目の前に差し出されたものは、
浣腸器と、グリセリン溶液の瓶だった。



コートの裾をつかんで、
お尻を出さない

どうするの？
えっと、アナルセックス
……じゃないんだよね？

わかった、
それじゃあ、
ここでやろう

全裸で季節外れのコートを羽織り、
明らかに不審な姿で、
人の多い往來を歩き回る。

おまけに、わざわざ私の持ち物をあさって、
何に使うのかもわからないのに
“それっぽいモノ”を持ち出してくる。

その言葉と態度から、我が娘が
M奴隷の資質があるんじゃないかという
強い疑いが、確信へと変わっていった。

ならばもう、遠慮することはない。





さっきの液、
来るっ！

ふ
ちゃ
ん
ん
ん

んああっ！
なんかっ、
入ってくりゅっ！

は



グリセリン溶液だよ
お前が持ってきただろう
楽にして、尻を突き出して

お腹、苦しいっ
お尻も、痛い……

破裂しそうっ、
あうう……

ぷん
ぷん

ぷん
ぷん

ん

ほ





やらあつ、らめえ！
そこ、ダメ、パパ！
どいてっ、んう……！！

我慢できなくなったら、
パパは瑠菜のモノまみれに
なってしまうなあ……

フリ
モ



はあっ、ダメええ
我慢、しなきゃ……
入れちゃダメえ、パパあ

無理だよおっ、
これ以上入れられたら、
ほんとに出ちゃうっ

ズキ
ズキ
ズキ







んあああつ！
ひっ、ああつ！

うっ...

もうしていいの？
お尻から出してもいい？
もう我慢できないよお！！

すけえ



うう...

パパ？ どいてよお
汚れちゃうよ、パパ
瑠菜、もう出ちゃうよっ

パパは動かないよ
もう少しこのアナルを
見ていたいからね

やああっ！

んんん
んんん



はううつ、ダメええつ
もうダメつ、出てるよお！

もう無理つ、パパつ！
ごめんなさいい！！

うっ

はっ

わっ

じん

じん



ほんとだな、
もう溢れてきてるぞ
じゃあ、出していいぞ

出しているんだよね？
出すよ、パパっ、出るのお！
あうううっ！ 出るううう！！

う

やっ

は

じん

じん





おおっ

こんなのいやあつ、
恥ずかしいっ、あひっ、
でも、気持ちいい……い

どんどん
出ちゃうう！

びちゃっ

ぽろぽろ



私が離れた瞬間、だらしない顔で喘ぎ悶え、
栓を失った尻穴から
汚物混じりの液を噴射させていく瑠菜。

やっと許された排泄にわななき、
腸内にあったものをすべてぶちまけて、
絶頂するかのように背を反らしていた。

拘束アナルセックス

公園での排泄を終えた瑠菜は、私に手を引かれ自宅へと戻ってきた。

はあ、はあっ、
シャワー、浴びさせてえ

リビングに入ったところで、
ぎゅちりと縛り上げ床に座らせる。



パパあ？ 縛るの？
今度は、何するの？
瑠菜、汚いよお……

そうだな、今度は
アナルの開発をしよう
つまり、お尻の穴だね

お尻……ん、わかったあ
今度は、アナル……うう
お尻も、する……んだ……



んん……
頭が反対になって、
苦しいよお





パパの、おつきくなってる
どういう風にするのお？
お尻で……するんだよね？

不安げな瑠菜に
笑いかけることもせず、
バイブ押し当て、
下腹部を突き出していった。





ぐぐぐぐぐ

んっ

んっ

んっ
んっ

んっ

さあ、アナルと口、
両方でご奉仕するんだ

んっ、あっ、あむぢゅっ、
パパはあっ、苦しひっ、
ぶっ、んぐっ、んむうううっ



んぢゅ、お尻、
きついつ、苦しいよおつ、
でも、入ってくりゅ

パイプう、ズブズブ来る
お尻でも、入りゅんだねっ

ぐわぐわ

んぢゅ

んぢゅ

んぢゅ
んぢゅ
んぢゅ



あは
あは

あは

は

くっ、うっ、そうだ、
そうやって唇をすぼめて、
しっかり舐めろ、いいぞ

んぐぢゅっ、ぢゅるっ、
ぢゅぶっ、はあっ、ぢゅっ、
お尻っ、奥まで来りゅっ

ガッガッガッ



はあ、はあっ、よし、
しっかり尻を突き出せ！
二本ともぎっちり啜え込め！



はあん！ お尻いつ！
パパっ、気持ちいつ、ひい！

ちゅぽっ

じゃぶ
じゅぽっ

ぎゅっ

ぎゅっ

痛いけど、濡れて、
むぐぐっ、ちゅぽっ、
もっろ、してえっ！









んぶぐぐつ、
ふぶうっ
精液ひいつ、
しゅごおっ！

セ〜ン
びゅるるっ！

びゅびゅ

ん〜！！

お尻ひい、チユゴチユゴ
されて砕けそうっ、んう！
ふああっ、い、ひいひい！

ザーメンも全部飲め！
アナルで絶頂できたなら、
その感覚を忘れるなよっ！

びゅっ
びゅっ

びゅっ
びゅっ



はあっ、くっ、うっ
まだ終わりじゃないぞ、
この後も、続くぞ……

笑いながらゆつくりと腰を引き、
パイプも引き抜いてやる。



あつ、お尻、見ないでえ
穴まで見えちゃうよお、
恥ずかしいっ、ダメ、うっ



お尻

じん

じん

ねえ、パパあ、えっと、
アナルセックスするの？
こういう格好で、するの？

そうだよ、
アナルセックスだからな、
お尻が主役だよ、ははっ

お尻



お尻に入れるの？
入れるんだよね、あつ、
瑠菜、頑張る、んう



はっ、あああん!

お尻っ、お尻に
ほんとに入ってくるう!
しゅご、苦しいいっ



痛あ、ああん！
苦しいよおっ、ひいつ！
髪の毛、痛い、パパあ！

ズブリズブリッ

ほら、どんどん入るぞ、
楽にしてろ、もつと感じて
気持ちよくなれ！





ぬぷっ...

ぬぷっ

お前は本当に
順応性が高いな、
感心するよ

よし、もつと行くぞ
尻を突き出して
声を出せ……!!



あつ、あふうつ、
んっ！ 痛いっ、
痛いよパパあ！

んっ！

んっ！

んっ！



痛がつてるくせに、
愛液を飛ばしてる
じゃないか！

ハァッハァッ

ニャーニャー

気持ちいいんだろ！
わざと苦しがつて、
ウソをついたお仕置きだ！





痛いけど、
だんだん気持ちよ
くなってるのっ!

いぬこなやろー!

ばしッばしッ

ざっざっ
ざっざっ
ざっざっ

ざっざっ
ざっざっ

あ

いっ



1P-1ッ! 1P-1ッ

おちおち

気持ちいいよ、パパあ!
ごめんなさいっ、いいっ!
もっと入れてええ!

尻の中も
濡れてきてるぞ、
気持ちいいんだろ!

調教も必要
ないかもな!



瑠菜、出してやるから
感謝して受け止めろ
いいか、出すぞ！

おっ
おっ

ズブッ
ズブッ

精液、出すの？
パパの、お尻の中で
硬くなって動いてるっ！

出る！

搾り取られる
みたいだよ瑠菜！





ふおおあつ

ぐんぐん
びゅー
ぐんぐん

パパ、パパあつ！
お尻、気持ちいい！
は、あ、んあああ！

くっ！ いいぞ、瑠菜！
まだまだ出るからな、
しっかり受け止めろっ！



あぁ〜!!

びゅるるるっ!

セックス
びゅるびゅる



おうう

ぐちゃぐちゃ
ぐちゃ

ぐちゃ

どろ...
ぬちゃ...

数時間ほどが経っただろうか。
瑠菜のアナル開発をすべく、
私はまだ
アナルセックスを続けている。



んはああ、はあ、はあ
やらあ、精液い、いっぱひい
ふうっ、どろどろ……



しゅごひいい、お尻い
ひくひく止まんないっ、
あうっ、パパあつ……

なんだ、だらしないな
ほら、しっかり足を広げて

あうっ

あうっ

あうっ……

はっ



パパあ……

16

16

16



テーブルの脚にロープをかけ、
瑠菜の両手両足を縛り上げたまま、
私はただ黙っている。

瑠菜の乳首とクリトリスには、
低周波器と繋がっている
導線つきクリップが取り付けられている。

ついでに、アナルにも、
低周波を伝達するための
金属の棒が押し込まれ、低周波器と結合され――





んあっ、あっ、
あああっ！

ひゃあっ、お尻っ、
お腹の中まで来るう！
ビリビリ、破裂しゆるう！

ズーッ

ズグズグ









あひつ、ふはつ、
ごめんなさいい、
パパあ!

気絶しそうになったから、
怒ってるんだよね?
もっと、頑張るからっ!

ズーッ
ズーッ

ハハハハハ

ぶしっ

ハハハハハ









オシッコどんどん出るう！
パパあ、まだ、出るよお！

た=ぽぽぽ.....

んはあっ

よく頑張ったね、瑠菜
じゃあ、少し休憩しよう

それからまた、
少しだけど“練習”しよう、
今回のおさらいを兼ねて、な



私の声が、聞こえているのかいないのか。

瑠菜は、虚ろなまなざしで宙を見上げたまま、
かすかにうなずいたようには見えた。

ベランダで二穴責め

その夜、私と瑠菜は平静を装いつつ
向かい合って夕飯を食べていた。

なあ、瑠菜
ちよつと聞くんだけどな

痛いことされたり
いやらしいことされて、
どう思ってる？

えっと、よくわかんないけど
痛いけど気持ちよかった、かな
だから、嫌じゃないよお



そうか、ならいいんだ……
夕飯を食べてゆつくりしたら、
また始めるぞ

ん……わかった、
瑠菜、もっと頑張るから、
よろしくね、ご主人様――



夕飯と片付けの休憩のち、
何も説明せずベランダに
縛りつけてやった。

やだ、パパあ、何これえ
倒れちゃいそうっ、
それに、誰かに
見られちゃわないかなあ

ぎしっ

ぎしっ

おはっ

びん

びん





これが今日の「プレイ」？
ベランダで、するの？

恥ずかしい、
やだあつ……

力を抜いて、
外でも見てろ

きしっ

きしっ

くっ
に

くっ
くっ

たは



誰かが通ったらしょ
見られちゃう、瑠菜の裸

パパとしてること、
見られたら……

はははは

はははは



んくううっ!

入ってくりゅっ、
お尻とあそこ、両方っ、
ふあうっ! んーっ!

ズ
ブ
ッ

ズ
ブ
ッ

あ



らめええっ、声出したら、
誰か来ちゃうっ……はあっ

はあっ、んんっ、あむうっ。
誰かに、氣づかれちゃったらあ
んぐうっ、でも、氣持ちいっ

ズブリッ
ズブリ



気持ちいいけど
我慢なんて大変だな

でも、これはこういう
プレイなんだから、
我慢するのは違うだろ

え、あ……あつ、
ひゃ、あああ……!!

にゅ
くちゅ

にゅ
くちゅ

やっ

あ



うあ、あぐう！
らめえ、パイブうつ
動かしたらっ、んぐう！

パパのも、ダメだよお！
ドスドスされたら
我慢できなくなりゅっ！

ズバァッ！

の
ハッ！



んはっ、ひっ、らめへっ、
気持ちひっ、いいけど、
声、ダメ、静かにしなきゃ

そうか、気持ちいいか
じゃあ、どこまで
耐えられるかな——

しゃっ
しゃっ
しゃっ

ズパッ!

しゃっ
しゃっ
しゃっ



んふあつ、あうううう！
らめえ、パパあ、それ以上
されたらあつ、んうう！



声っ、出りゅっ、お尻、
チュボチュボ音がしゅるっ、
身体中に沁みるみたひい

はあっ、いいぞ、瑠菜
もっと力を入れて、
きつく締めつけてこいっ！

ぐっ
ぽっ

ズッ
ズッ
ぐっ
ぽっ



パパの、ぎゅんって
硬くなってきた……
精液、出そうなの？

出して、いっぱい出して
瑠菜のいやらしい穴で
気持ちよくなって、欲しいっ！

出すぞ、瑠菜！
思いつき声張り上げて
好きなだけイけ！！

おち
おち
はんっ！
IR-ッ



あああああ!

ビュッ!
ビュッ!

んひやあつ、ああああ!
イクううう! ダメええ!!

もう、声止まらなっ
あん! あ、あああ!

びゅびゅ

びゅるるる!

ビュッ!



ひあああ！ イくう！
お尻もあそこも気持ちいい！
全部いいっ、ひああああ！

ああん

ひゅるひゅるるるッ

ひゅるるッ

そら、どんどん出るぞ！
瑠菜も好きなだけ
声を出していきまくれ！





夜空に可愛らしくも淫らな嬌声が響く。
もしも下を誰かが通れば、
まず間違いなく声を聞かれる。

だが、私も我慢はできない。
瑠菜の中に最後の一滴まで流し込むべく、
ぐっと下腹を突き出していく。

愛娘との首絞めセックス

んっ、はあ、はあ、ううっ、
お尻、熱い、パパのおつきすぎ
あ、あっ、気持ちいいっ

瑠菜もすっかり
慣れてきたな、いいぞ、
尻もしっかりほぐれてる



アナルセックスを行ないながら、
私は考えていた。

欲望が、止まらない。
どうしてもこの女と
首絞めセックスを楽しみたい。

ソファの上で繋がりが合いながら、
瑠菜の顔を盗み見る。



パパあ、もつとして
入ってるだけで、いいっ
ゴツゴツ来るともつとすごくて

はっ

しゃっほっ

ぬちゃ...

1P-ッ! 1P-ッ!

はあっ、瑠菜も、
ずいぶんよさそうだな
くくく.....

そろそろ、頃合いか。
私はゆっくりと腕を伸ばしていった。

あ





んぐっ、けほっ、
げっ、げほっ！

ズブッ

ぬふっ

ぬふっ

けっほおっ、
はあっ、ああん



パパあ、何するの
お苦しいよっ、はあっ、けほっ
首、締めるのお？ けほっ

ズブッ
ぬっ...

ぬっ

うん

うん

はっ



んぐっ、ちゅ、はあっ、
パパああっ、キス、嬉し
でも、苦し、うっ……

ちゅ、んっ、大丈夫だ、
殺すわけじゃない
絞めるだけだよ、んっ











パパの精液、出てるう！
どんどん出てきてっ、熱い！
んちゅっ、はあっ、ちゅ！

んんん！！

ひゅるるッ

ひゅるるるるッ

ひゅッ



しっかり吸い上げろっ
いつでも好きな時に、
いくらでもイクがいいっ

パパああっ、瑠菜も、
イってりゅのかもお
わかなひ、はあっ、あっ



はあ、はあっ、ふはあっ、
パパあ、気持ち、よかったあ
熱くて、どろどろお.....

たけ

ぐい

どろろ...

ぬちや...



ん、んっ、気持ちいい
すごく静かに、何度もイってる
あん、いいっ、はあっ

ぐんぐん

ぐんぐん

ぬちゃ...



んちゅ、はあつ、ちゅ、
パパあ、ちゅ、ちゅつ、
好き、パパ、んちゅ



瑠菜、私もお前が好きだよ
くっ、ちゅ、はあっ、ちゅ、
瑠菜、あ、あっ……



……本当はもう少し、
きつく長く絞め上げてやりたかったが、
いきなりはいけない。

これからまた、
時間をかけ回数を重ねて、
少しずつ慣れさせていこう。

最終的には一瞬失神するくらいで合格点。
しかし、安全には気を配らなければならない。

王道の蝋燭&鞭打ちプレイ

あれから、しばらくの時間が過ぎた。

瑠菜は連休があるたびにここへやって来て、何日か滞在していく。

名目はもちろん、父親に会いに。
だが、実際は“ご主人様”からの
調教を受けに来ているのだ。

そして、そんなある夜のこと――





あは

あは

ぽた

ぽた

あんっ、パパあ、熱いい
蝋燭、すぐくSMっぽいっ、
ふふっ、はあ、あはああっ

気持ちいいみたいだな
ほら、もっと欲しいんなら、
しっকারいのけぞって来い！





たまには、
別の場所も
責めてみるか

ばしいッ!

すつごく響くの、
あそこにもおっぱいにも
響くっ、ふうん!

ああん! 痛いっ!
でも気持ちいい!



いや、まだ
終わじゃないよ
ちよつと休憩しようか

ふう、はあ
ようやく休憩？
ふふっ、ふふっ

パパあ？ 何？
もう終わり……？

とろ…



ママはどうしてる？
電話じゃ、元気そうだが

うん、元気だよお
いろいろ習い事してて……

そうか、瑠菜は
学園楽しいか？

うん
こないだもね、
友達と一緒に……

とろ……



くすつ、やきもち?
ふふつ、らしくないよお
でも、嬉しいな、ふふつ

ぐん...

で、瑠菜は、その……
恋人はいるのか?

おは

おは



……そろそろ、
プレイを再開しようか

はい、わかりました
よろしくお願いします、
ご主人様、ふふっ





気持ちいいんだろう？
ほら、瑠菜！

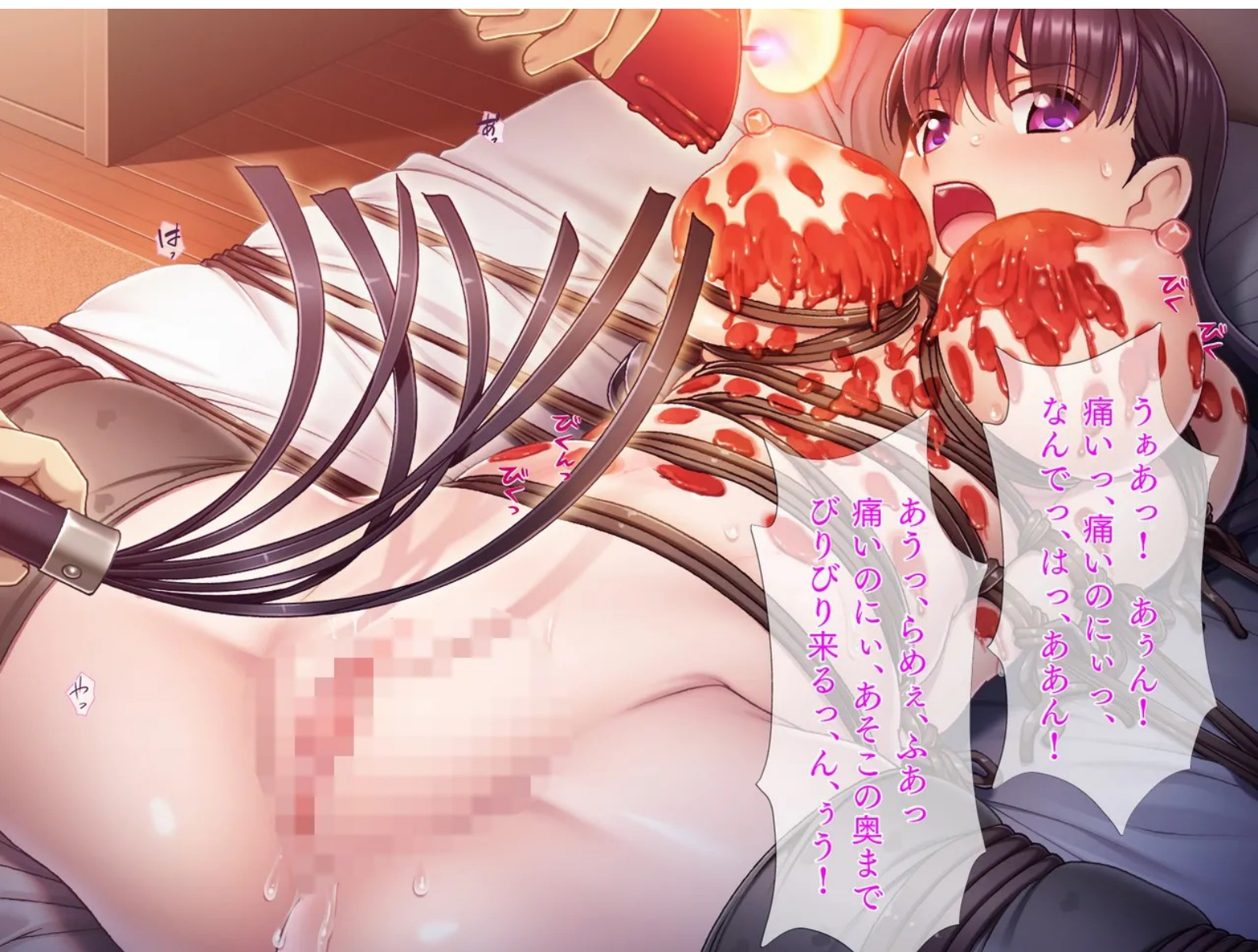
んああっ！ すごいっ！
こんなの、ダメえ、急に
痛いのに、気持ちいい！

じん

じん

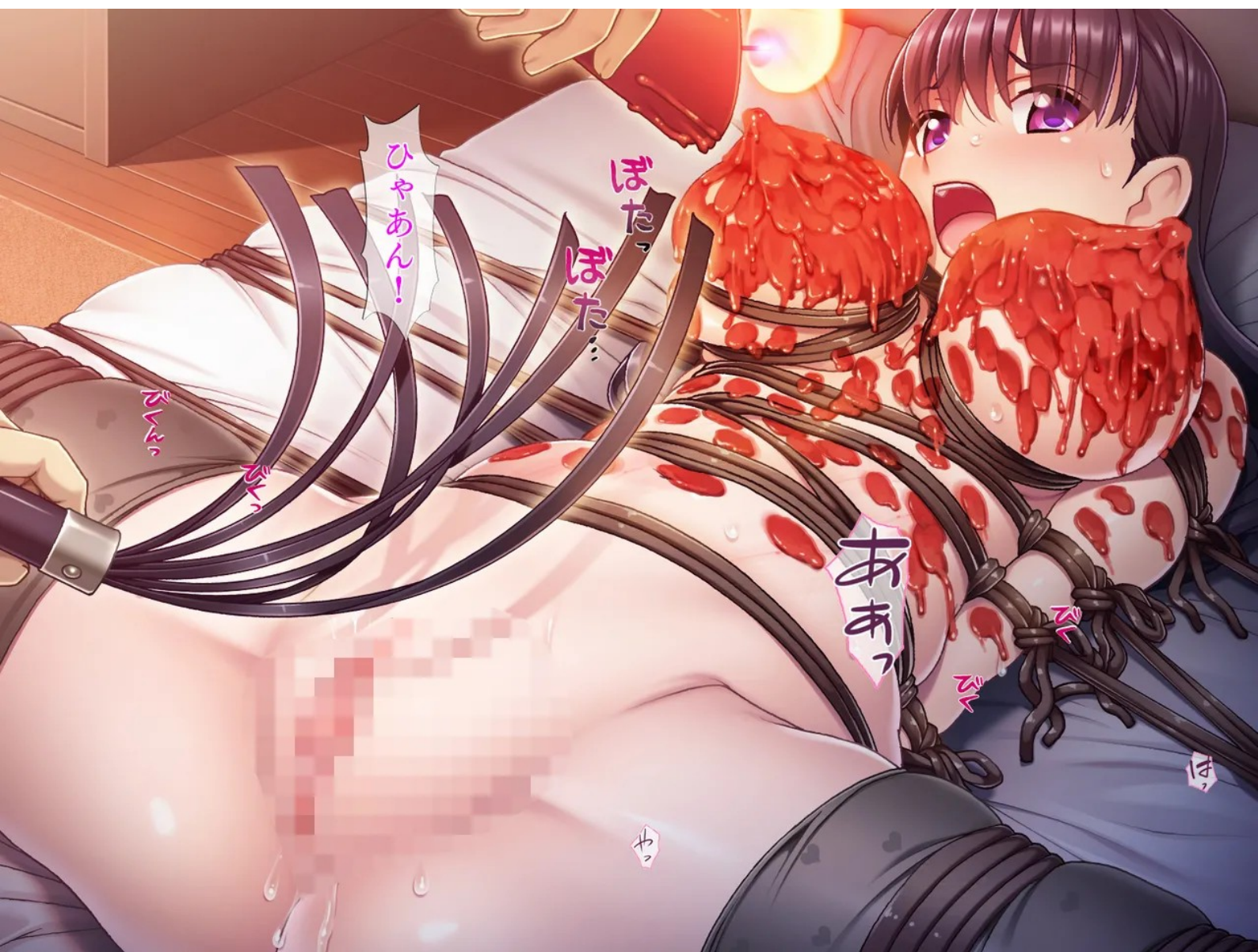
やっ





うああっ！ あうん！
痛いっ、痛いのにいつ、
なんでっ、はっ、ああん！

あうっ、らめえ、ふあっ
痛いのに、あそこの奥まで
びりびり来るっ、ん、うう！





あつ、ああん、熱いっ
乳首もビリッて来たのっ、
蠅、やああ……

ぼた…

ぼたっ

やっ



はあっ、うう、乳首っ、
乳首だけでイっちゃいそうっ
パパあっ、ダメええええ！



おっぱいもあそこも
気持ちいいつ、全部いい
もっと、もっとしてええ！

悪い子だな、瑠菜は
ご主人様におねだりばかり
ほら、くれてやるよ！

はあつ、んはあつ、
パパああ、気持ち、
いいつ、いいの





んーっ！ ふぐぐっ！
やあつ、もう、らめえっ！
ふっ、くっ、イク、ううう！！

じん

じん

じん



ああああッ!

アッアッアッ!

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ!

アッアッ

んああーっ!



んくあああつ！
パパあつ、パパつ、ご主人様！
もっとお願ひしますっ、んう！

ビュッ

ビュッ！

ふあああ

愛液っ、出るう！
オシッコみたいにつ、
中に溜まってるたのっ！

アッアッ
アッアッ

ビュッ

アッアッ



悶絶し、痛みと快楽の中で激しく達しながら、
瑠菜はビチャビチャと愛液を噴射させる。

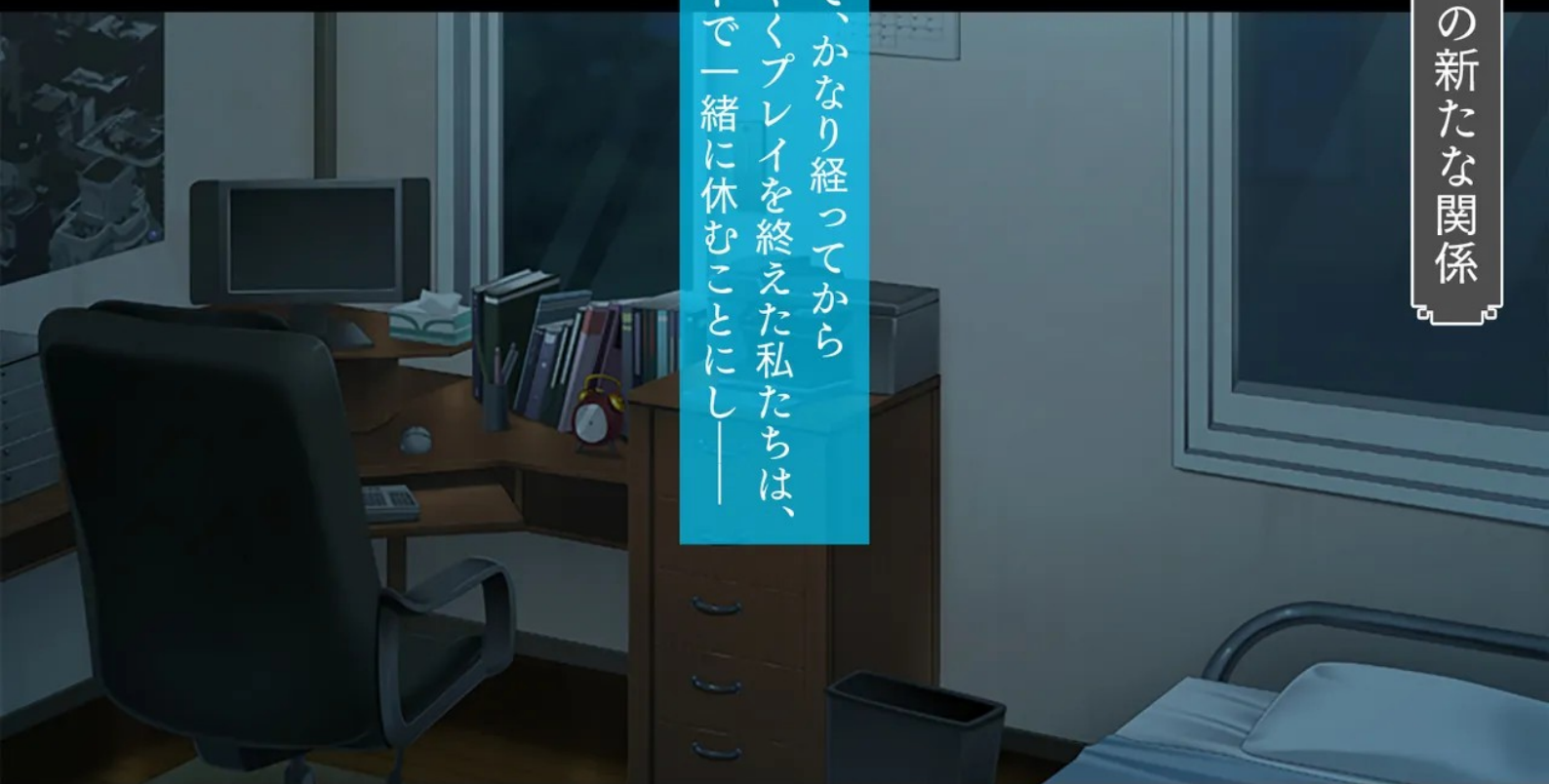
私はそのいやらしい裂け目めがけて、
強く鞭を振るっていった。

瑠菜は興奮冷めやらず、
いつまで経っても身をよじりねだってくる。

だからその後も、
私の責めと彼女の懇願の声は、
しばらくの間続いた。

娘との新たな関係

やがて、かなり経ってから
ようやくプレイを終えた私たちは、
ベッドで一緒に休むことにし――





ふふ……ご主人様、
パパあ……ねえ、パパ
ふふふっ……

瑠菜……

ふふっ



ん？

ねえ、パパ……

あのね、瑠菜、
パパを騙してたの

瑠菜がここに来たのはね、
ママにスパイしてって
頼まれたからでね……

……そうか

私はあまり驚かなかった。
意外には思ったが、不自然な話ではない。

せい……



他に女の人
がいるん
じゃないか、
って
ママ、心
配してて……

でもね、
瑠菜、
パパの
こと
好きだし、
SMの
ことも
好きに
なって



パパが真剣にやってるから、
瑠菜も楽しくなって

だから、パパと、
ずっと一緒にいたくて
したくて……

……



……やっぱり、ダメ？
パパは、瑠菜のご主人様には
なってくれないの？

瑠菜が、
パパの奥さんじゃなくて
娘だから、ダメ……？

……



あ……

パパもだよ
瑠菜と、ずっとこの関係を
続けていきたいよ



パパは……私はもう、
瑠菜のことを娘じゃなくて
一人の女性として見てるからね

パパ……



ふふっ、パパも、
そうだったんだ……

仕方のないパパ、
困ったご主人様ね
ふふふっ



ありがとう、パパ
じゃあ、ずっと一緒だよ
これからもここにきていい？

それでね、学園を卒業したら
瑠菜もここに住むの
進学したり、就職したりね

ああ、いいとも
パパも瑠菜とずっと一緒に
いられるよう頑張るよ



こうして私と娘の関係は、
ただの父娘ではなくなった。

妻にはもちろんのこと、
私たち以外の人間には明かすことのできない、
特別な関係となってしまったのである――。

～おしまい～